

2021年度版(2020年度実績)

# 事業概要

Outline of activities







## ■ 概 要

## Outline

事業内容	Main Activities	3
全国の血液センター	Blood Centers in Japan	4
血液事業のながれ	Flow of Blood Services	5
血液のゆくえ	Flow of Blood Products	6
献血状況	Change in Number of Donors	7
供給状況	Supply of Blood Products	11
血液製剤一覧	List of Blood Products	12
広報活動	Public Relations	13

## ■ 活動実績

## Actual result

2020年度日誌	Diary	15
献血功労表彰	Recognition	17
2020年度山口県献血推進ポスター・作文入賞作品	Poster and Composition	18

## ■ 組 織

## Organization

組織機構図	Organization Chart	23
職員数	Number of Staff	24
車両台数	Number of Vehicle	24
施設	Facilities	25

## ■ 沿 革

## History

沿革	History	27
----	---------	----

## 血液を通して、人と人を結んでいます。

血液センターでは、現代医療に欠かせない輸血用血液の供給をはじめ、血液に関するさまざまな事業を行っています。

血液を通して大切ないのちを守り、人と人とを結ぶ架け橋として日夜努めています。

### □ 事業内容 *Main Activities*

#### 事業

日本赤十字社血液センター規則第3条の2により次の事業を行います。

- 1 献血者の確保及び献血の受入れ
- 2 血液製剤の供給
- 3 その他血液事業本部長が必要と認めた事業

#### 2021年度山口県献血推進計画

必要血液量及び献血者を確保するため、次の取り組みを行います。

- 1 献血運動推進強調月間等におけるイベント等の開催
- 2 広報活動
- 3 若年層に対する献血思想・体験の普及
- 4 複数回献血者の確保
- 5 団体・事業所における献血の推進
- 6 400mL献血及び成分献血の推進
- 7 啓発資材の作成と活用
- 8 献血協力団体及び個人の表彰
- 9 地区献血推進協議会活動への支援
- 10 市町、健康福祉センター担当者の研修への協力要請

その他にも下記の取り組みを行います。

- 1 災害時等における輸血用血液の確保
- 2 血液製剤の適正使用の推進

#### 関連事業

骨髄バンク事業



日本赤十字社公式マスコット  
ハートラちゃん

## 血液製剤を不足なくお届けするための全国のネットワーク。

日本赤十字社が血液事業を推進するために、全国に血液センターが整備されています。  
また各ブロックセンターでは、検査・製剤・需給管理部門の業務を行っています。

### □ 全国の血液センター *Blood Centers in Japan*

(2021年4月1日現在)

日本赤十字社 血液事業本部(1)  
ブロック血液センター(7)  
地域血液センター(47)

#### 北海道ブロック

北海道ブロック血液センター (北海道札幌市)  
〈地域血液センター〉 北海道

#### 東北ブロック

東北ブロック血液センター (宮城県仙台市)  
〈地域血液センター〉 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県

#### 関東甲信越ブロック

関東甲信越ブロック血液センター (東京都江東区)  
〈地域血液センター〉 茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・新潟県・  
山梨県・長野県

#### 東海北陸ブロック

東海北陸ブロック血液センター (愛知県瀬戸市)  
〈地域血液センター〉 富山県・石川県・福井県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県

#### 近畿ブロック

近畿ブロック血液センター (大阪府茨木市)  
〈地域血液センター〉 滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県

#### 中四国ブロック

中四国ブロック血液センター (広島県広島市)  
〈地域血液センター〉 鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県

#### 九州ブロック

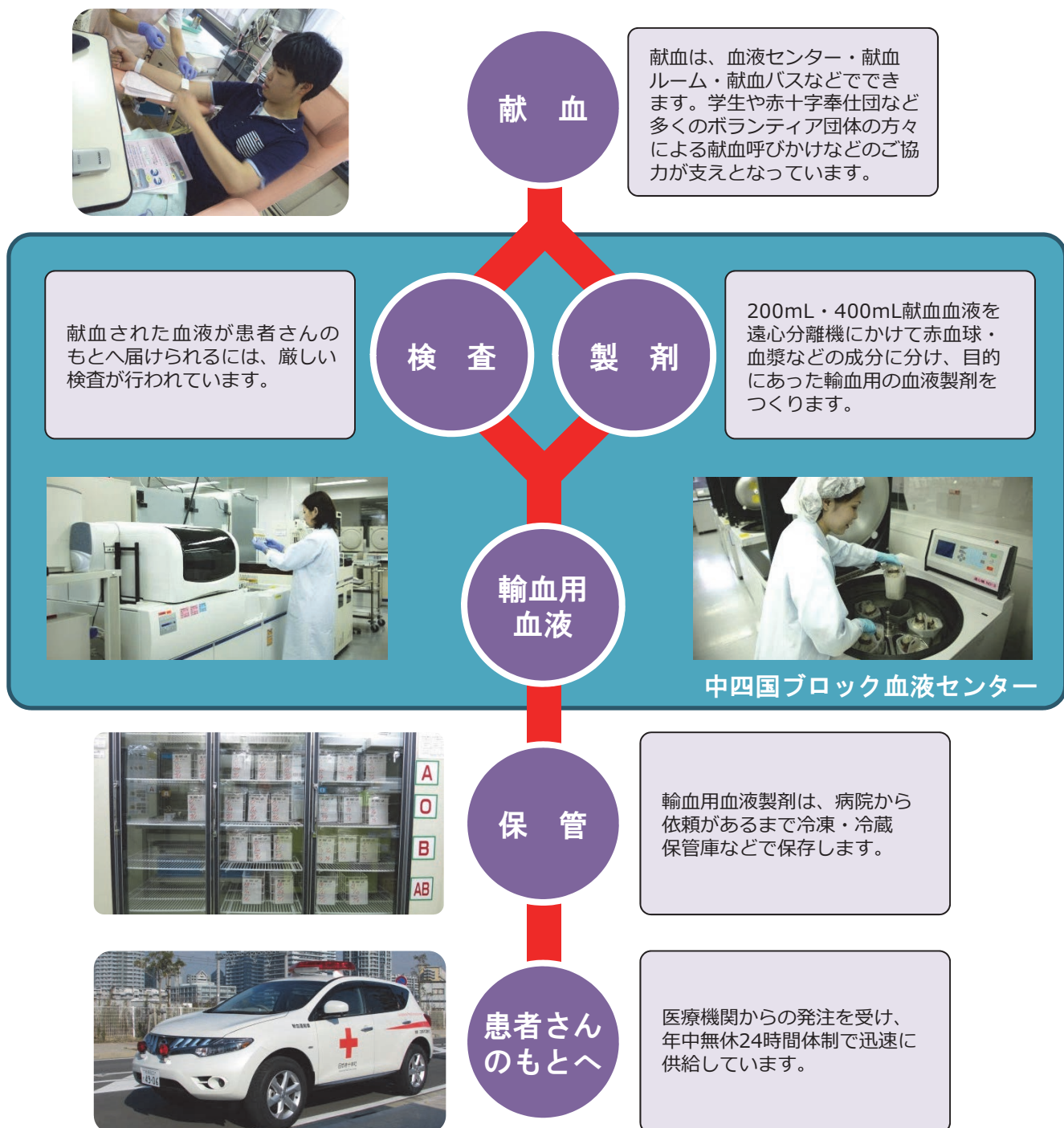
九州ブロック血液センター (福岡県久留米市)  
〈地域血液センター〉 福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

## 安全性の高い血液確保と安定供給に向けて。

善意の献血で得られた血液は、厳しい検査をはじめいくつもの工程を経て、輸血用血液製剤として生まれ変わります。

私たちは、人命尊重のためにこの安全性の高い輸血用血液製剤を医療機関に安定供給することを心がけ、24時間体制で医療を支えています。

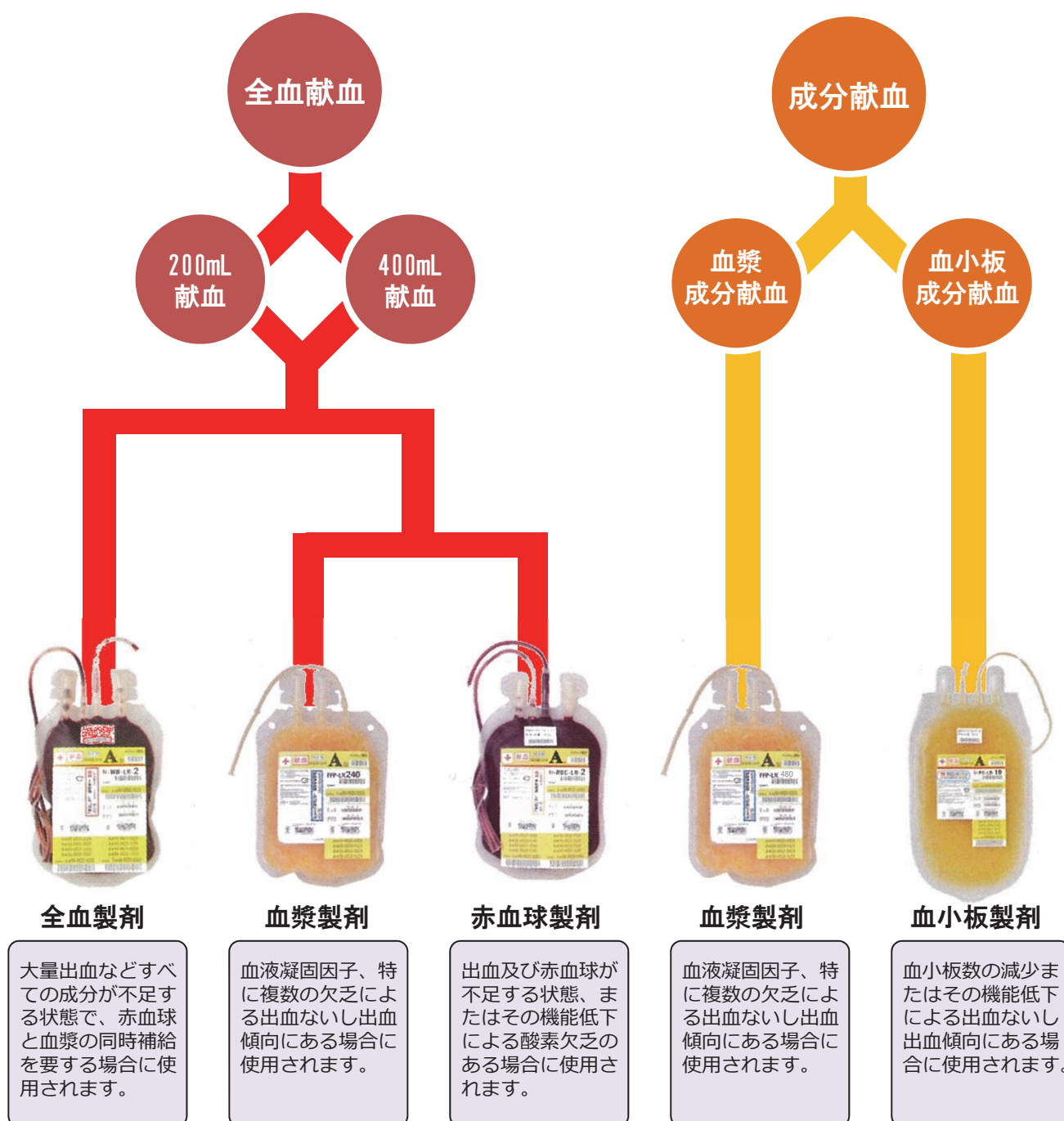
### □ 血液事業のながれ *Flow of Blood Services*



## みなさまの善意に、よりお応えするために。

献血していただいた血液は、  
輸血用血液製剤【全血製剤・血液成分製剤（赤血球・血漿・血小板）】として医療に使われています。  
血液を必要としている患者さんにとって、  
安全性の高い血液を安定的にお届けするためには、  
健康なみなさまによる献血のご協力が必要です。

### □ 血液のゆくえ *Flow of Blood products*



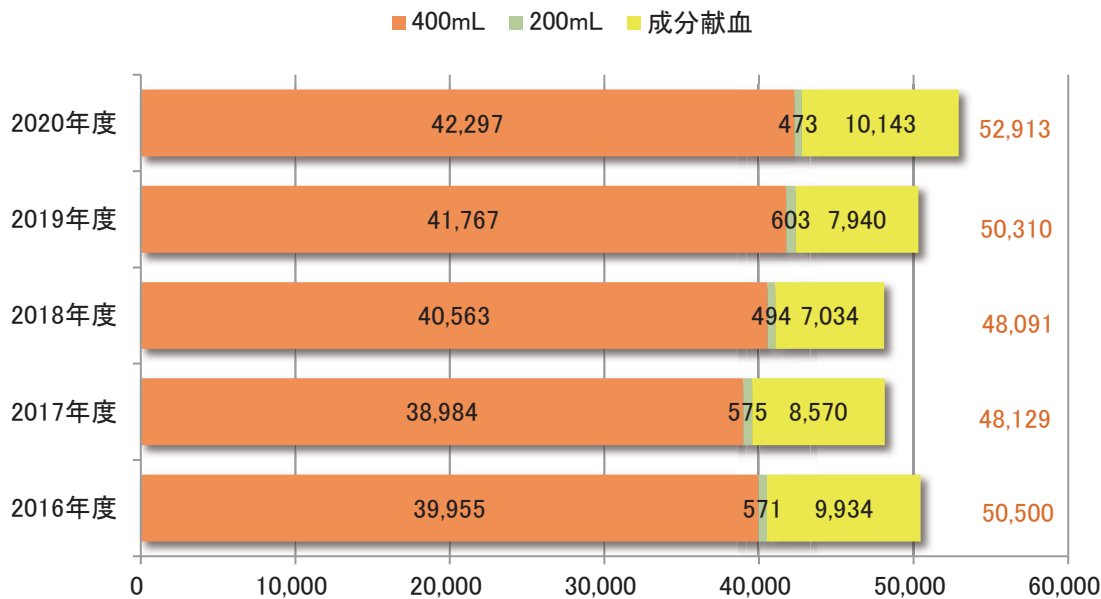
(一部写真 出典:愛のかたち献血 平成28年4月第21版)

## 2020年度の献血者数は52,913人。

血液センターでは、輸血時の副作用軽減のため成分献血・400mL献血を推進しています。

### 献血状況 *Change in Number of Donors*

#### 献血者数の推移（山口県）



(人)

	受付者数	献血者数	前年比	全血献血				成分献血					
				400mL	前年比	200mL	前年比	400mL比率	血漿	血小板	計	前年比	
2020年度	山口	58,533	52,913	105.2%	42,297	101.3%	473	78.4%	98.9%	6,432	3,711	10,143	127.7%
	全国	5,618,832	5,037,920	102.3%	3,246,688	99.6%	123,417	88.0%	96.3%	1,119,352	548,463	1,667,815	109.4%
2019年度	山口	57,588	50,310	104.6%	41,767	103.0%	603	122.1%	98.6%	4,115	3,825	7,940	112.9%
	全国	5,559,290	4,926,488	104.0%	3,261,220	101.0%	140,170	99.0%	96.0%	939,116	585,982	1,525,098	112.0%
2018年度	山口	56,006	48,091	99.9%	40,563	104.1%	494	85.9%	98.8%	2,819	4,215	7,034	82.1%
	全国	5,378,634	4,735,944	100.1%	3,230,411	99.0%	141,941	93.1%	95.8%	757,658	605,934	1,363,592	103.0%
2017年度	山口	56,255	48,129	95.3%	38,984	97.5%	575	100.7%	98.5%	3,346	5,224	8,570	86.3%
	全国	5,405,268	4,732,141	98.0%	3,261,587	99.8%	146,132	93.1%	98.9%	666,883	657,539	1,324,422	94.4%
2016年度	山口	59,423	50,500	99.9%	39,955	97.8%	571	96.5%	98.6%	4,444	5,490	9,934	109.8%
	全国	5,546,552	4,829,172	98.9%	3,268,707	98.6%	156,950	76.0%	95.4%	703,887	699,628	1,403,515	103.4%

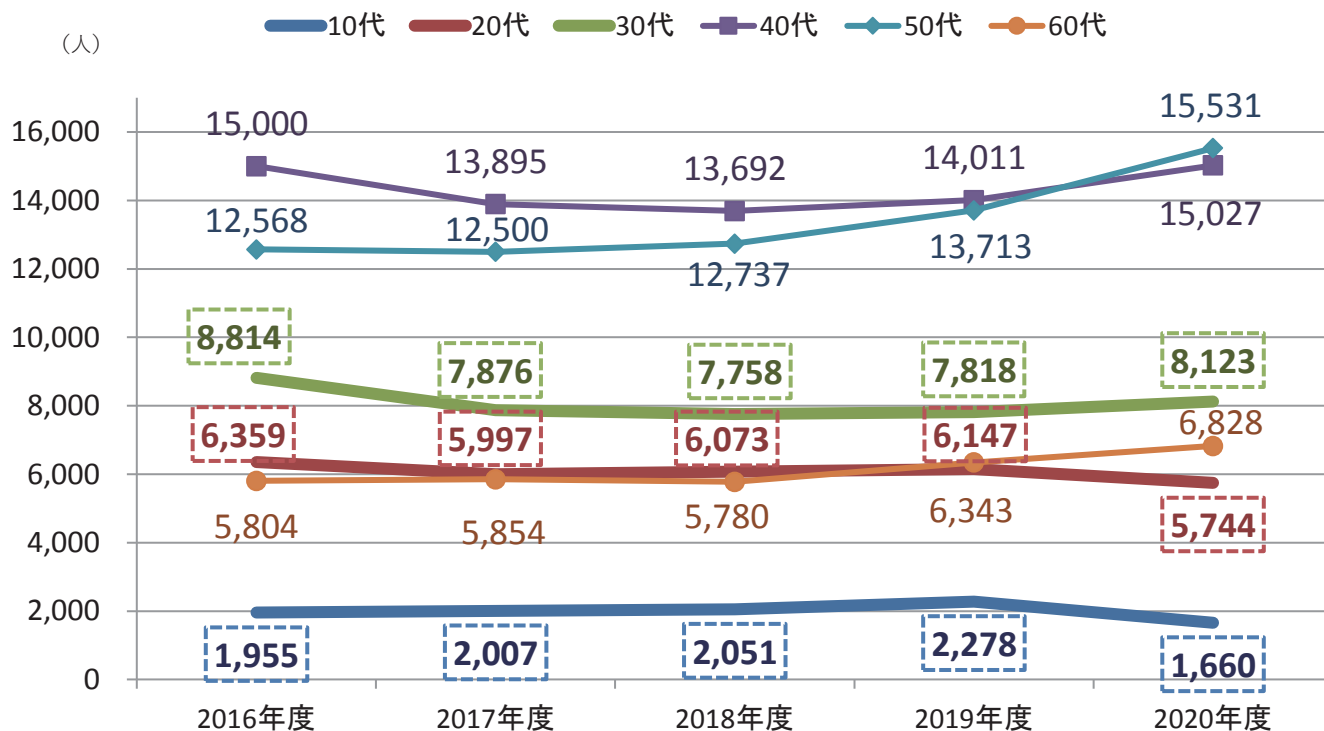


## 若年層の献血者が減少しています。

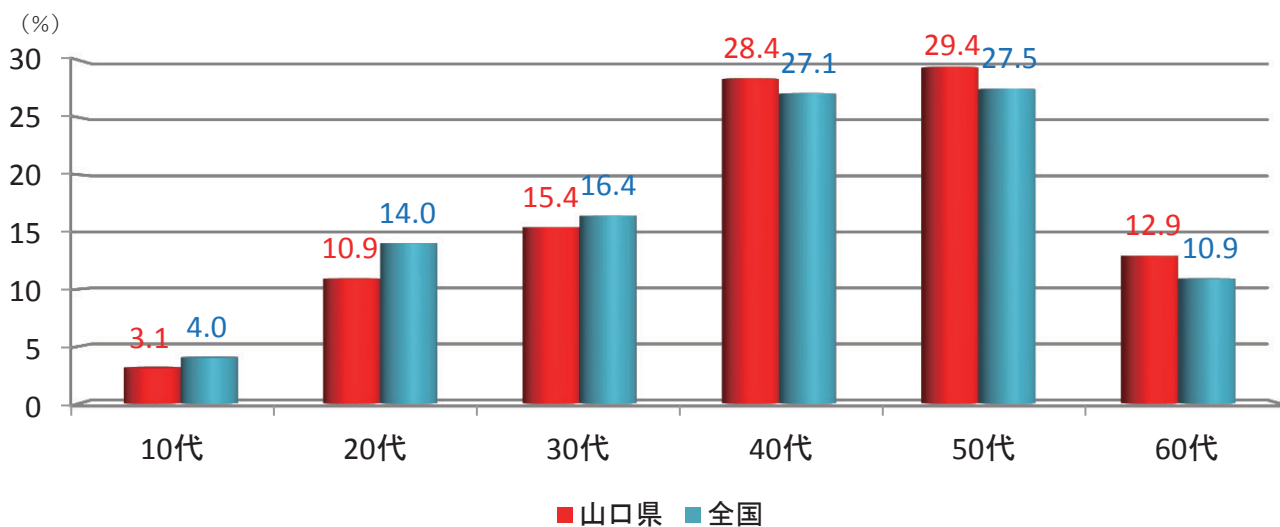
学内献血が実施できず10代の献血数が激減。

直近3年では50代が20%上昇と献血者層の高年齢化が見られます。

### ■ 年代別献血者数の推移（山口県）



### ■ 2020年度献血年代別構成比



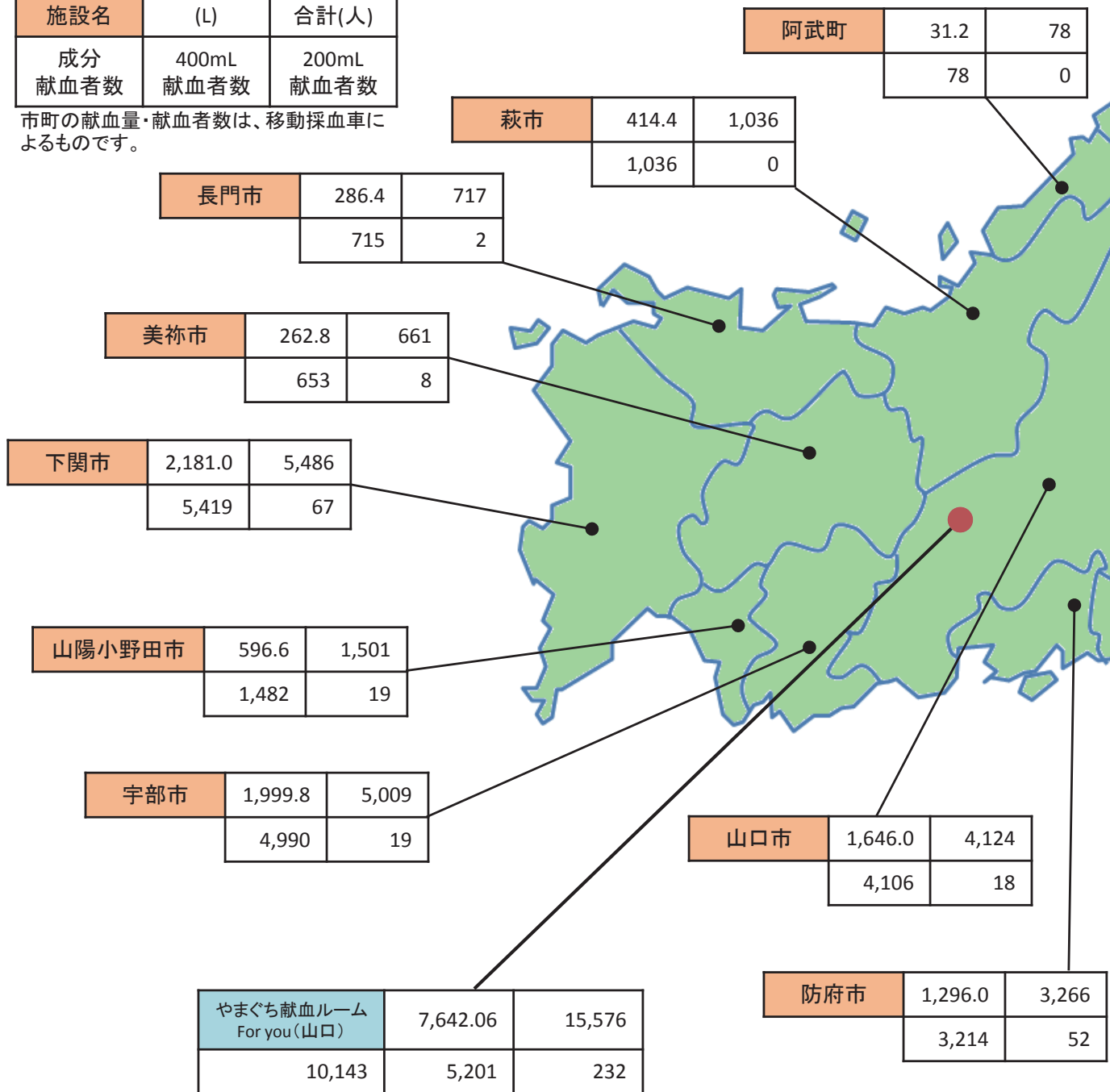
## 山口県における献血者の8割は、移動採血車でのご協力です。

山口県における献血は、やまぐち献血ルームFor you（山口市）と、移動採血車4台が県内を巡回しご協力をいただいています。

### ■ 市町別献血者数

市町名 施設名	献血量 (L)	献血者 合計(人)
成分 献血者数	400mL 献血者数	200mL 献血者数

市町の献血量・献血者数は、移動採血車によるものです。





移動採血車 合計	14,886.6	37,337
	37,096	241

年間延べ704台稼働

周南市	1,429.4	3,575
	3,572	3

下松市	1,470.8	3,682
	3,672	10

光市	263.4	659
	658	1

岩国市	1,801.4	4,517
	4,490	27

和木町	178.4	446
	446	0

柳井市	626.0	1,572
	1,558	14

周防大島町	114.2	286
	285	1

平生町	139.6	349
	349	0

田布施町	114.0	285
	285	0

上関町	35.2	88
	88	0

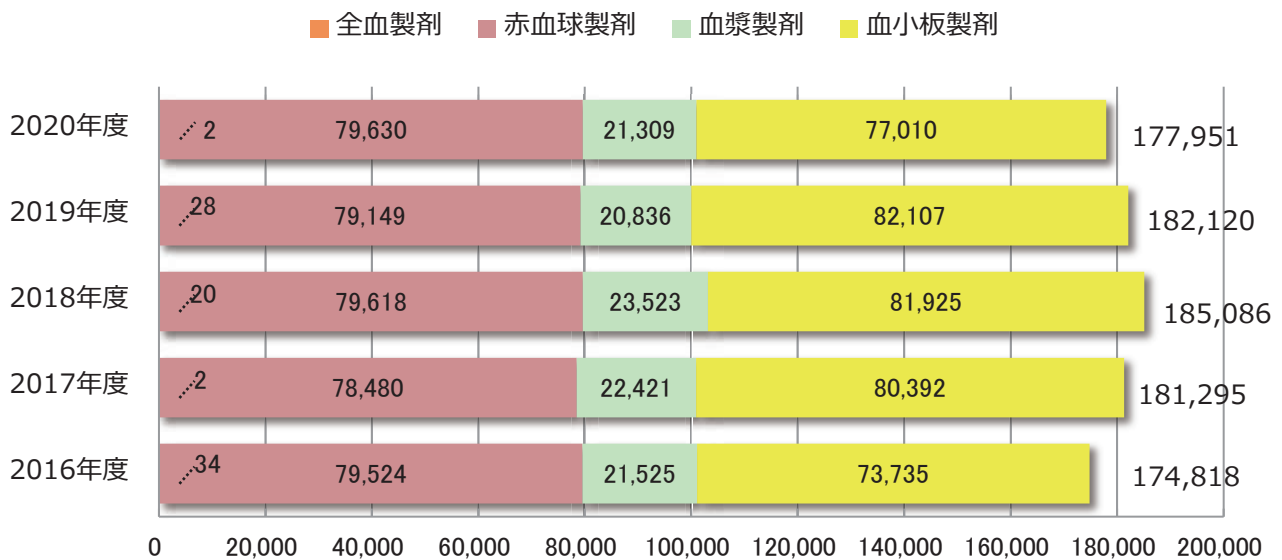
## 医療機関へは血液成分製剤の供給が主流。

医療機関では、必要な成分だけを輸血に使用するため、血液成分製剤（赤血球・血漿・血小板）の供給が主流となっています。

### □ 供給状況 *Supply of Blood Products*

#### ■ 供給単位の推移（山口県）

(200mL換算単位)



(200mL換算単位)

年度	地域	合計	前年比	全血製剤		成分製剤					
				全血製剤	前年比	赤血球	前年比	血漿	前年比	血小板	前年比
2020年度	山口	177,951	97.7%	2	7.1%	79,630	100.6%	21,309	102.3%	77,010	93.8%
	全国	17,132,979	98.0%	38	46.3%	6,362,679	99.4%	2,102,827	97.9%	8,667,435	97.1%
2019年度	山口	182,120	98.4%	28	140.0%	79,149	99.4%	20,836	88.6%	82,107	100.2%
	全国	17,477,494	100.1%	82	164.0%	6,403,405	100.8%	2,148,406	98.6%	8,925,601	101.3%
2018年度	山口	185,086	102.1%	20	1000%	79,618	101.5%	23,523	104.9%	81,925	101.9%
	全国	17,338,357	97.9%	50	166.7%	6,350,246	98.8%	2,179,996	98.5%	8,808,065	97.2%
2017年度	山口	181,295	103.7%	2	5.9%	78,480	98.7%	22,421	104.2%	80,392	109.0%
	全国	17,704,027	99.8%	30	31.9%	6,429,293	100.2%	2,213,085	99.4%	9,061,619	99.7%
2016年度	山口	174,818	98.7%	34	141.7%	79,524	98.7%	21,525	97.0%	73,735	99.6%
	全国	17,737,975	99.4%	94	68.6%	6,419,208	99.3%	2,226,551	98.7%	9,092,122	99.8%

※200mL換算単位：200mL献血から調整される製剤を1単位として換算

## 医療のニーズに合わせた血液製剤。

血液から作られる血液製剤は、輸血用血液製剤として医療のニーズに合わせて、さらに細かく分類され、患者さんの生命を守っています。

### □血液製剤一覧 *List of Blood Products*

#### ■主要な輸血用血液製剤一覧

(2021年4月現在)

販売名	略号	効能または効果	有効期間	貯法
照射人全血液-LR「日赤」	Ir-WB-LR	一般の輸血適応症に用いる。	採血後 21日間	2～6℃
照射赤血球液-LR「日赤」	Ir-RBC-LR	血中赤血球不足又はその機能廃絶に適する。	採血後 21日間	2～6℃
照射洗浄赤血球液-LR「日赤」	Ir-WRC-LR	貧血症又は血漿成分などによる副作用を避ける場合の輸血に用いる。	製造後 48時間	2～6℃
照射解凍赤血球液-LR「日赤」	Ir-FTRC-LR	貧血又は赤血球の機能低下に用いる。	製造後 4日間	2～6℃
照射合成血液-LR「日赤」	Ir-BET-LR	ABO血液型不適合による新生児溶血性疾患に用いる。	製造後 48時間	2～6℃
新鮮凍結血漿-LR「日赤」120	FFP-LR120	血液凝固因子の補充 (1)複合性凝固障害で、出血、出血傾向のある患者又は手術を行う患者 (2)血液凝固因子の減少症又は欠乏症における出血時で、特定の血液凝固因子製剤がないか又は血液凝固因子が特定できない場合。	採血後 1年間	-20℃ 以下
新鮮凍結血漿-LR「日赤」240	FFP-LR240			
新鮮凍結血漿-LR「日赤」480	FFP-LR480			
照射濃厚血小板-LR「日赤」	Ir-PC-LR	血小板減少症を伴う疾患に適応する。	採血後 4日間	20～24℃ 要・振とう
照射洗浄血小板-LR「日赤」	Ir-WPC-LR	血小板減少症を伴う疾患に適応する。	製造後 48時間 (ただし、採血後4日間を超えない)	20～24℃ 要・振とう
照射濃厚血小板HLA-LR「日赤」	Ir-PC-HLA-LR	血小板減少症を伴う疾患で、抗HLA抗体を有するため通常の血小板製剤では効果が見られない場合に適応する。	採血後 4日間	20～24℃ 要・振とう
照射洗浄血小板HLA-LR「日赤」	Ir-WPC-HLA-LR	血小板減少症を伴う疾患で、抗HLA抗体を有するため通常の血小板製剤では効果が見られない場合に適応する。	製造後 48時間 (ただし、採血後4日間を超えない)	20～24℃ 要・振とう

## ひとりでも多くの方に、献血が身近になるように。

血液センターでは、広く献血にご協力いただくことと、血液事業について多くの人にご理解いただくことを目的にさまざまな広報活動を展開しています。

### □ 広報活動 Public Relations



### ホームページの開設

血液センターのさまざまな情報を、ホームページを利用してお知らせしています。献血会場のご案内をはじめ、キャンペーンのお知らせや献血状況に応じた献血のご協力・抑制のお願いなど充実した内容で情報発信を行っています。

#### ■ ホームページアドレス

<https://www.bs.jrc.or.jp/csk/yamaguchi/>

### フェイスブックの運用

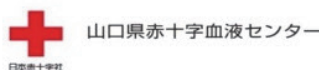
フェイスブックを利用して、キャンペーンやイベントのお知らせをはじめ、献血に関する様々な情報を積極的かつリアルタイムにお伝えしています。



### LINE@の運用

LINE@を利用し、キャンペーンやイベントのお知らせをはじめ、若年層の方に血液センターや献血について関心を持っていただけるような情報を発信しています。

山口県の献血に関する情報をお知らせするLINEの「友達追加」から右の「QRコード」で登録してみようやあ！！



QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。



## キャンペーン・イベントの開催

キャンペーンやイベントを通じて、献血の普及啓発を行っています。

献血者が減少する時期にあわせて開催しています。

## けんけつキッズスクール

小学校高学年を対象に、親子で参加する体験教室「けんけつキッズスクール」を開催しています。

血液や献血についての講義や血液センター、献血バスなどの見学を行います。親子でいのちや健康の大切さ、助け合いの大切さについて考える内容となっています。



## 献血出前講座

小学校から大学、専門学校までの児童、生徒、学生の皆様に献血のことを知ってもらい、身近に感じてもらうため、職員を派遣して「献血出前講座」を行っています。

講義とビデオ鑑賞で、血液のこと、献血のことを学んでいただくとともに、いのちの大切さ、助け合うことの大切さを考える内容となっています。



## 職場体験・血液センター見学

中学生、高校生の職場体験の受け入れを行っています。血液事業に関する基礎知識を学び、献血者の受け入れ、血液製剤の医療機関への配送などを体験していただくカリキュラムとなっています。

また、献血に対する知識と理解を深めていただくための、血液センター内の見学会も行っています。

お問い合わせ、お申し込みは、総務課までお尋ねください。

■山口県赤十字血液センター総務課  
TEL 083-922-6866

※2020年度は新型コロナウイルス感染防止のため「キッズスクール」及び「職場体験学習」は実施していません



## 幅広い活動で献血協力を呼びかける。

2020年度に行った主な活動内容です。

献血を呼びかけるキャンペーン活動から血液事業を啓発する活動まで幅広く展開し、血液の確保に向けて広く呼びかけを行いました。

□2020年度日誌 *Diary*

## イベント・キャンペーンなど

4月14日～5月15日	平日・祝日限定☆アイスクリームサービスデー	やまぐち献血ルームFor youで展開 平日・祝日献血協力者へアイスクリームのプレゼント
5月2日～5月31日	赤十字運動強調月間	やまぐち献血ルームFor youで展開 献血協力者にハートラちゃんの焼き菓子のプレゼント
5月16日、17日	母の日プレゼント	やまぐち献血ルームFor youで展開 「弘中園芸」様提供 献血協力者100名にユリの花をプレゼント
6月1日～6月30日	#おうち時間リフレッシュ ～献血でもリフレッシュ！～キャンペーン	やまぐち献血ルームFor youで展開 献血協力者にリフレッシュグッズのプレゼント
6月20日、21日	父の日プレゼント	やまぐち献血ルームFor youで展開 山口県花卉園芸推進協議会様提供 献血協力者100名にバラとリンドウの花束をプレゼント
7月～8月	「愛の血液助け合い運動」強調月間	13市13会場において地域に密着したイベントを実施
7月20日～8月14日	『Yamakatsu×Kenketsu』 夏の献血キャンペーンwith Yamakatsu	やまぐち献血ルームFor youにYamakatsuブースを展開 SNSやラジオを使った推進活動
7月1日～8月16日	ネスレキットカット献血応援キャンペーン	やまぐち献血ルームFor youで展開 献血協力者にご当地限定キットカットのプレゼント
7月1日～9月30日	平日・祝日限定☆アイスクリームサービスデー	やまぐち献血ルームFor youで展開 平日・祝日献血協力者へアイスクリームのプレゼント
8月18日～8月30日	愛の血液助け合い運動 健康×献血ミニコーナー	やまぐち献血ルームFor youで展開 圧力計・フードモデルの展示・〇×クイズなど
9月1日～9月13日	ネスレキットカット献血応援キャンペーン	やまぐち献血ルームFor youで展開 献血協力者にご当地限定キットカットのプレゼント
9月28日～11月15日	食べて応援！！献血de地産地消 キャンペーン	やまぐち献血ルームFor youで展開 献血協力者に山口県産の記念品のプレゼント
11月16日～12月5日	ネスレキットカット献血応援キャンペーン	やまぐち献血ルームFor youで展開 献血協力者にご当地限定キットカットのプレゼント



## イベント・キャンペーンなど(続き)

12月13日	全国学生クリスマス献血キャンペーン	主催 全国学生献血推進実行委員会 山口県学生献血推進協議会 県内2校9名の学生が参加
12月12日～25日	クリスマスリース展示	やまぐち献血ルームFor youで展開 県内の輸血臨床検査技師の皆さんによる手作りリース展示
12月6日～25日	クリスマス献血キャンペーン	やまぐち献血ルームFor youで展開 献血協力者に記念品のプレゼント
12月8日～25日	クリスマス献血ウィークス	移動採血車で展開 献血協力者に山口県産の記念品プレゼント
12月27日～1月10日	ゆく年くる年献血キャンペーン	やまぐち献血ルームFor you、移動採血車で展開 献血協力者にカップ麺のプレゼント
1月1日～2月28日	はたちの献血キャンペーン	8市8会場において地域に密着したイベントを実施
1月11日～1月31日	あったかほかほか献血キャンペーン	やまぐち献血ルームFor youで展開 献血協力者に記念品のプレゼント
1月31日～2月14日	バレンタインスペシャル Yamakatsu♡Kenketsuキャンペーン	やまぐち献血ルームFor youで展開 献血協力者にアイドルグループYamakatsuが考案し、 YICビジネスアート専門学校パティシエ科が製作した チョコレートをプレゼント
2月16日～28日	はたちの献血キャンペーン	やまぐち献血ルームFor youで展開 献血協力者に記念品のプレゼント
4月1日～2月28日	山口県部活動対抗献血選手権	県下部活動所属高等（専門）学校～大学生対象 高校部門29団体延べ145名の献血協力 大学部門90団体延べ258名の献血協力
3月1日～4月30日	アイスクリームサービスデー	やまぐち献血ルームFor youで展開 献血協力者へアイスクリームのプレゼント
3月20日～4月9日	献血ルームリニューアル3周年！！	やまぐち献血ルームFor youで展開 やまぐち献血ルームForyouオリジナルけんけつちゃん クッキーをプレゼント
3月22日	お花見献血キャンペーン	主催：山口県学生献血推進協議会 県内2校8名の学生が参加

## 血液事業に多くの功績があった個人・団体を表彰。

毎年献血に多大なご協力をいただいた皆様に感謝の気持ちを込めて表彰を行っています。  
2020年度も多くの個人・団体の皆様にご協力をいただき功労表彰を授与させていただきました。  
血液事業は、こうした多くの方々に支えられています。

### □ 献血功労表彰 Recognition

#### 厚生労働大臣表彰状 (1団体)

岩国市水道局	岩国市
--------	-----

#### 厚生労働大臣感謝状 (7団体)

宇部サルビアライオンズクラブ	宇部市
株式会社カワトT.P.C	岩国市
医療法人社団成蹊会岡田病院	長門市
西日本旅客鉄道株式会社 広島支社 下関総合車両所	下関市
美祢ライオンズクラブ	美祢市
一般財団法人山口県商工会館	山口市
下松警察署	下松市

#### 山口県知事感謝状 (6団体)

医療法人医誠会 都志見病院	萩市
キャボットジャパン株式会社 下関工場	下関市
下関北ライオンズクラブ	下関市
全国農業協同組合連合会 山口事務所	山口市
株式会社 創舎	宇部市
公益社団法人 柳井法人会	柳井市

#### 山口県献血推進協議会長感謝状 (8団体)

イオンタウン周南	周南市
株式会社イズミ ゆめシティ	下関市
山陽ライオンズクラブ	山陽小野田市
下関ライオンズクラブ	下関市
三井化学株式会社岩国大竹工場	和木町
美祢社会復帰促進センター	美祢市
株式会社山口県農協印刷	山口市
山口県農業協同組合 宇部統括本部	宇部市

□ 2020年度山口県献血推進ポスター・作文入賞作品

Poster and Composition

■ポスター

最優秀



田布施町立田布施中学校 3年  
藤井春佳

優秀



宇部市立上宇部中学校 2年  
安部 凜



長門市立仙崎中学校 2年  
宇田七海

佳作



長門市立三隅中学校 1年  
吉岡玲音



長門市立仙崎中学校 2年  
金子 葵



山口県立小野田高等学校 2年  
天野春香

## ■作文

最優秀

「父の姿から学んだこと」

山口大学教育学部附属山口中学校 2年 久保 雛子

「ちょっと出かけてくるね。」血液センターからの電話を受けた父がいそいそと出かける準備を始めたのは、休日の夕方のことだった。

こんな時間に何をしに行くのかと尋ねると「献血だよ。血小板のね。」と言い、父は静かに出かけて行った。

父はよく献血に行っており、腕にぶ厚くて丸い絆創膏を貼って帰ってくると「今日は献血したんだな。」と思っていたし、何回か献血するともらえる記念品のお猪口もいつの間にか二つ三つと増えていた。おそらく献血へ向かう父の姿を見たのはその夜が初めてだったと思うが、私はその時「献血ルームって休みの日まで開いてるんだな」とぼんやり思っていた。更に言えば「献血は血が足りない人に同じ血液型の血を輸血するためのもの」くらいに考えていたと思う。

帰宅した父はHLA適合型血小板献血について、私に詳しく教えてくれた。

赤血球にABO式の型があるように、白血球にも型があること。これをHLA型ということ。臓器移植や何度も血小板輸血を受けた患者さんには一般の血小板輸血では効果がなく、HLA型の適合型に適合した血小板の輸血が必要になること。HLA型の適合する確率は、兄弟姉妹間で四人に一人、非血縁者間で数百人から数万人に一人であること。血小板の有効期限は四日間と短いため貯めておくことが出来ず、必要な時に急に連絡がくることもあること。そして、そもそも献血でHLA型の登録をしていないと探すことも出来ないこと。

知らないことだらけで目を白黒させる私に父はこう続けた。

「奏ちゃんも誰かの献血に助けてもらってるからね。必要ならいつだって行くよ。」

奏ちゃんとは私の弟のことで、彼は二歳の時に川崎病を発症している。その時に使用したγグロブリン製剤というのは献血から造られた血液製剤だという。幸い弟は後遺症もなく元気に過ごしているが、それも一番必要な時にその血液製剤を投与できたから。誰かの献血のお陰なのだ。

献血といえば事故や手術の輸血のためという印象しかなかったが、その話を聞いて急に身近で心強い存在に感じるようになり、食器棚に並べられたお猪口も特別きれいに思えた。

今年はコロナ禍で献血が減っていると聞く。そんな中でも「誰かのために」と定期的に献血に通う父を誇らしく思うと共に、私も献血が可能な年齢に達したら、ぜひ血小板の登録をしようと思い心に決めた。弟を救ってくれた誰かの献血への小さな恩返しとして、私の献血もいつか誰かの役に立てたらと思う。

優秀

「お金にかえることができないもの」

山口大学教育学部附属山口中学校 3年 古川 瞳

この夏、祖母が入院した。祖母は元々貧血になりやすい体質だったが、年を取り、持病が増えてきて、その影響で貧血も更に悪化してしまったそうだ。日常の生活を取り戻すためには、輸血が必要という話を母から聞き、私は驚いた。今まで輸血という言葉聞いたことはあったが、大きなけがや病気をした時の手術に必要なものと思っていたからだ。今まで輸血を身近に感じることはなかったが、この時、輸血をとっても身近なものに感じた。またそれと同時に「献血」という言葉も初めて身近に感じた。よく、街中を走っている献血車を見ることがある。また、病院に行ったとき、そばにある献血ルームを見ることがあった。しかし、まだ中学生の私には関係ないと決めつけて、気にすることもなかった。だから、今回の祖母の話を聞き、「献血」についてもっと知りたいと思った。

「献血」によって集められた血液は、手術時の血液の補充に限らず、祖母のような貧血の治療や悪性がんの治療にも使われるそうだ。血液には様々な型があり、多くの検査を経て、輸血が必要な人の血液と混ぜてもアレルギー反応が起こらないかなどを確認し、使用されるそうだ。祖母は、今回自分に合う血液を輸血できたことで、何の問題もなく治療を終える

ことができたが、自分に合う血液がなければどうなっていたらだろうか。現在、血液は長期保存することができず、また、人工的な血液は製造することもできない。しかし、血液による治療を必要としている人は、日本で、一日に約三千人もいるそうだ。血液があれば命が助かる人々に対して私たちができることは、「献血」ではないだろうか。

私たちのように、まだ体が未発達な中学生には、体に負担がかかるため、「献血」をすることができない。「献血」をするには様々な条件を満たさなくてはならない。その一つである「十六歳」。私は、来年十六歳になり、「献血」をすることが可能になる。全国的に見ても若い人の協力数がとても低いそうだ。私たちは、身近にある助けることのできる命を見て見ぬふりをしてはいけないと思う。何でも買える世の中のように思えることがあるが、血液はお金で買うことができない貴重な命の源だと感じた。だからこそ、ボランティアで「献血」を行うことが大切だと思う。

この作文を書いている今も、日本赤十字社のホームページを見ると、400mL、成分献血は困っていますと表示されている。私たち一人ひとりにできることは限られていると思うが、多くの人と同じ気持ちになれば、救える命がきっとあると思う。

今回学んだことを忘れず、「献血」に協力できる大人になりたいと思う。

## 優秀 「命を支え合う」

山口県立熊毛南高等学校 2年 中村 怜

それまで献血をする機会がなかった私は、その重要性を漠然と感じつつも、具体的に献血がどのようなものでどんな場面で役に立つのかを詳しくは知らなかった。しかし、三年前、祖母が救急搬送された際、輸血を伴う長時間にわたる手術の結果、一命を取り留めたことを知った。名も知らぬ誰かの献血による尊い血液のお陰で手術を行うことができたのだ。今、祖母の命があるのは医師や看護師のみなさんによることはもちろんだが、献血をしてくださった人々のおかげでもある。祖母に限らず、献血によって助かっている命は数え切れないほどあるだろう。日常の中で行われている献血を「小さな親切」といったイメージでとらえていた私は、人の命を助ける上で必要不可欠なものだと気づくことができた。

献血とは、病気やけがによって輸血を必要としている人のために、自発的に無償で血液を提供することだ。血液は酸素や栄養の運搬、免疫などの人間の生命を維持するために欠くことのできない多くの機能を担っている。現段階ではその機能を完全に代替できる人工血液は存在しないため、医療において輸血は欠かすことができない治療法となっている。私たちの献血によって血を確保しなければ医療は成り立たないのだ。しかし今、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて献血をする人も少なくなり、保存期間の短い血液が不足する懸念が続いている。だが「コロナによって苦しんでいる今だからこそ」との思いで献血活動に取り組む動きも全国各地に広がっている。献血をしたくても、体の弱い人や血が少ない人はすることができない。自身の健康に配慮しつつ、献血によって助け合っていくことが私たちにできることではないだろうか。

思えば、私たちは決して一人で生きているわけではない。社会は人々の支え合いによって成り立っている。私たちの衣服や食物など、それらを作っている人がいるからこそこうして生きることができている。自分一人だけの力で存在することは不可能であるだろう。家族や友達などの関わりのある人々、直接的には関わりのない、または一生出会うことのない人々に私は生かされている。すべての人々が支え合い、助け合うことによってこの世界は存在しているのだ。

私は将来医療系の仕事に就きたいと考えている。自分がいつ死ぬかもしれないという不安の中にいる患者さんに生きる力を呼びおこし、心の支えとなり、共に「生き切る」ことが私の夢であり目標だ。「生き切るため」に献血は必要だ。私は献血についてさらに学び、積極的に関わっていくつもりだ。献血は人々の命を救う医療行為であり、私たちの社会のあたたかい「贈り物」でもあるのだ。

## 佳作 「私たちにもできること」

山口県立高森高等学校 2年 島原 溪夏

毎年夏休みに大阪に住む祖母の家に行く。その度に、とある駅で献血車を見かける。大学生くらいだろうか、私たちとそう歳の変わらない若い人も、猛暑の中、必死に献血をするように訴えている。

私の所属するJRC部でも、毎年文化祭で献血について多くの人に知ってもらうため、ポスターを作成したり、献血に関するクイズを行ったりといった活動を行っている。そうは言っても、私たちにとって献血というのはどこか遠い話。私自身も献血に行ったことはない。

今年の夏休みは、コロナウイルスの影響もあり、大阪へ出かけなかった。あの献血車は今年もいるのだろうか、そんなことを考えていると、あるニュースが私の目に留まった。そのニュースの内容は、東京都では、コロナウイルスの影響で大学等での集団献血が見送られ、献血が不足している、というものだった。現在は他県の献血で不足分を補っているそうだが、今後、こういった傾向が全国各地で見られると思うと背筋が凍った。献血で助かるはずの命が助からなかったら…。そんな最悪の事態を起こさないために私たちには何ができるだろうか。

私は、高校生である私たちにもできることが二つあると考えている。まずは、自分が参加すること。200mL献血であれば、十六歳から献血ができる。献血バスや献血ルームを探して参加してみよう。もし、自分が献血できなくても、協力することはできる。献血の協力を呼び掛けるボランティアに参加したり、周りの人に献血について教えてあげたりして、献血の必要性や、どこで献血できるのか、などを共有し、献血に参加してくれる人を増やそう。

多くの人が何となく、自分とは縁がないことだと思っている献血。私たち一人ひとりが献血についてもっとよく知り、身近な問題だと感じることでできたら、このコロナ禍の状況でも、献血が不足してしまう、なんてことは起こらなくなるのではないかな。そして、毎年、猛暑の中、献血を呼び掛けている方々の努力も報われるのではないだろうか。

私も献血受けてみよう。さて、どこで受けられるのだろうか、調べてみよう。

## 佳作 「献血の力」

柳井学園高等学校 3年 今井 未来

私はこの夏、高校3年生全員を対象とした自主的な献血活動に参加し、人生で初めて献血をしました。その時の私の気持ちや、献血に対して改めてどう感じたのかを、この作文を通じてお伝えしたいと思います。

まず、何故私が献血をしようと思ったのかというと、母が手術をした時に、献血された血液を使用したからです。母が手術した部位は、大量に出血する恐れのある場所で必ず輸血が必要でした。だから、その時に私はふと考えました。「もし、この輸血用の血液がなければどうなっていたのだろうか、もし誰かが献血をしてくれていなかったら、手術は失敗し、もうあの元気なお母さんに『おかえり』と、二度と言ってもらえなくなってしまったのではないのだろうか。」と。そう思うと、献血をしてくださった方々や、献血に携わった方々に対する感謝の気持ちが止まりませんでした。そして、同時に、私も献血をして他の人の命を、

献血で繋ぎたいと思ったことが、献血をしようと思った一番大きな理由です。

そして、一学期の終業式の後で、私は献血を受けました。最初にアンケートや血液検査などを済ませて、いよいよ献血バスに向かいました。バスの中では、既に献血をしている人がいましたが、新型コロナウイルスの影響で3密を避ける為、人数を少なくして行っていました。自分の番が回ってきました。約20分程度の間、どんどん私の血液が集められていく中で、この針の痛みが献血で命を繋ぐ痛みなのだと感じました。確かに、針で献血する時は少し痛いと思ったり、10分を経過したところで少し気分が悪くなったりしましたが、それと同じように私の心は温かい気持ちで満たされていました。母を献血が救ってくれたように、今度は私の献血で誰かの命を救うのかと考えると、生命の温もりと痛みを理解した様な気がしました。

正直に言えば、今までの私は、献血に対しての意識はそこまで高いものではありませんでした。必要なことだとは理解していましたが、だからといって自分がするのは嫌だと思い、見て見ぬ振りをしていました。けれども、母の手術のことや、今回実際に献血をしてからは、また次もしようと思う程に、意識を変えることができました。しかし一方で、献血を求める呼びかけに、辛さや苦しさを感じるようにもなりました。それは、ショッピングセンターの入口付近で献血の呼びかけをしている人に、誰一人として見向きもせず、通りすぎて行くだけの様子を見たからです。私は既に献血をしていたため、少なくとも半年は献血をすることができないので、とても歯がゆい思いをしました。だから、私はこれから直接献血すること以外にできることとして、家族や友達に献血の素晴らしさや必要性を、たくさん伝えたいと感じました。

## 佳作 「忘れられない日」

柳井学園高等学校 3年 河野あさひ

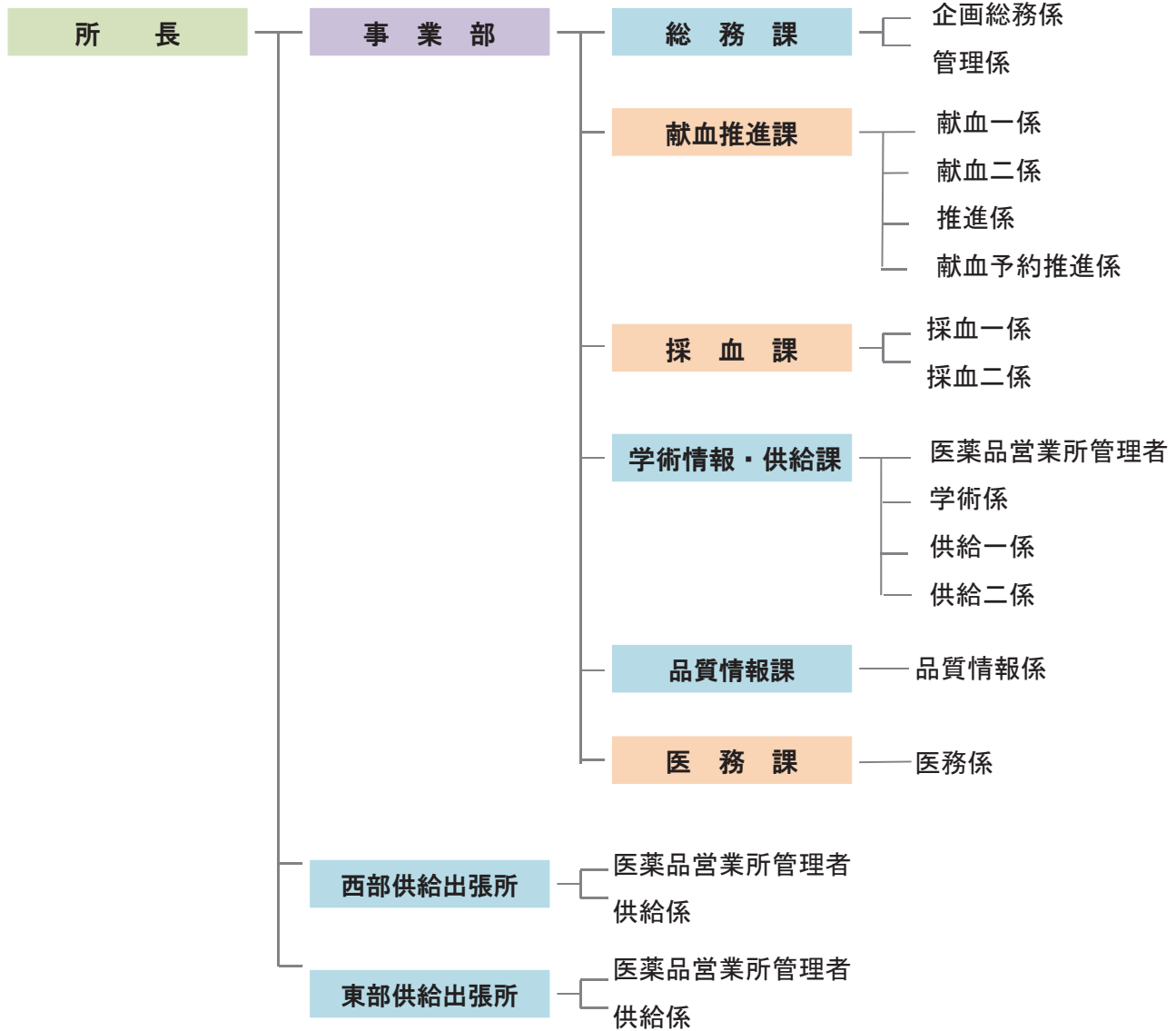
2020年7月28日。私は、この日をずっと忘れたいと思う。この日の一ヶ月前に学校で献血セミナーがあった。そこでは、献血の重要性や、実際に輸血を受けた人たちからの感謝のメッセージビデオ、献血の主な流れの説明などを聞いた。そして最後に「7月に献血バスが来るので、よかったですら協力お願いします。」と言われた。そのときはまだ、ぼんやりとしか献血について考えていませんでしたが、献血セミナーの後日、献血の同意書が配られて、改めて友達や家族と献血について話し合った。友達はみんな献血について前向きで、私も母に相談して、献血を受けることにした。担任の先生は輸血を受けたことがあり、献血ができないと話していた。先生のように、献血がしたくてもできない人がいるということも、私の背中を押した。それから私は、高一の夏休みに書いた献血作文のことを思い出した。そういえば、あの作文の最後に『絶対に献血します』と書いたのだ。正直、当時のあの言葉は、母に言われるがまま、何となく書いたものだったけれど、2年越しにその誓いを果たせるのだと、どこか誇らしく思えた。

そして、7月28日。献血の時間が近づくにつれ、友達が「なんか怖くなってきた。」と言い出して、私も少しずつ緊張し始めていた。書類に記入をして、血液検査をして、順番が回ってくるのを待っている間も、気を紛らわせるために、友達と話して心を落ち着かせていた。しばらくして「バスが空いたのでどうぞ」と声がかかり、いよいよ私の番が回ってきた。バスの中には献血用のイスがいくつかあり、先にバスの中で献血中だった友達に「最初は痛いけど、すぐ痛くなるよ。」と言われ、恐怖心も少し薄れた気がした。席に案内されると、まずは体調を聞かれ、献血時のめまいなどを予防する足の運動の説明を受けて、ついに献血の針が刺される時が来た。献血用の針は血液検査の針よりも太く、刺してからすぐは、洗濯ばさみで挟まれたくらいの痛みがしたが、友達の言ったとおり、本当にしばらくしたら痛みはなくなった。献血中も体調を聞かれ、足の運動を続けた。私よりも前に献血を受けていた友達と「あとどのくらい？」など話しているうちに、針を抜く時間になった。献血が終わった後、献血カードを受け取った。荷物を取りに教室に戻ると、先に献血を終えた友達がいて、「ねえ見て。献血カードってめっちゃかっこよくない?」「わかる。ちょっと成長した、って感じる。」という会話をしている、私も嬉しくなった。献血カードは、人の役に立てた証明書。成長の証。

私は、人生初の献血をして、とてもよかったと思った。たった30分程で、高校生の私でも人の命が救えたのだ。それだけではなく、自分が健康だということまで分かった。ちょっと痛いけど、いいことが沢山ある。これからは、献血バスを見かけたら、積極的に協力したい。

## □ 組織機構図 Organization Chart

(2021年4月1日現在)



採血業
  管理及び販売業



職員数 *Number of Staff*

(2021年4月1日現在)

(人)

職種	医師	薬剤師	検査技師	看護師	事務職	計
本所	3	1	3	25	52	84
西部供給出張所	0	1	0	0	10	11
東部供給出張所	0	1	0	0	13	14
合計	3	3	3	25	75	109

 車両台数 *Number of Vehicle*

(台)

車種	献血バス	検診車	マイクロバス	送迎車	広報車	献血運搬車	器材運搬車	乗用車	計
本所	4	2	1	5	4	9	1	4	30
西部供給出張所	0	0	0	0	0	4	0	0	4
東部供給出張所	0	0	0	0	0	6	0	0	6
合計	4	2	1	5	4	19	1	4	40

### 3か所の施設で血液事業を展開しています。

1965年（昭和40年）に山口赤十字病院の一室に開業。

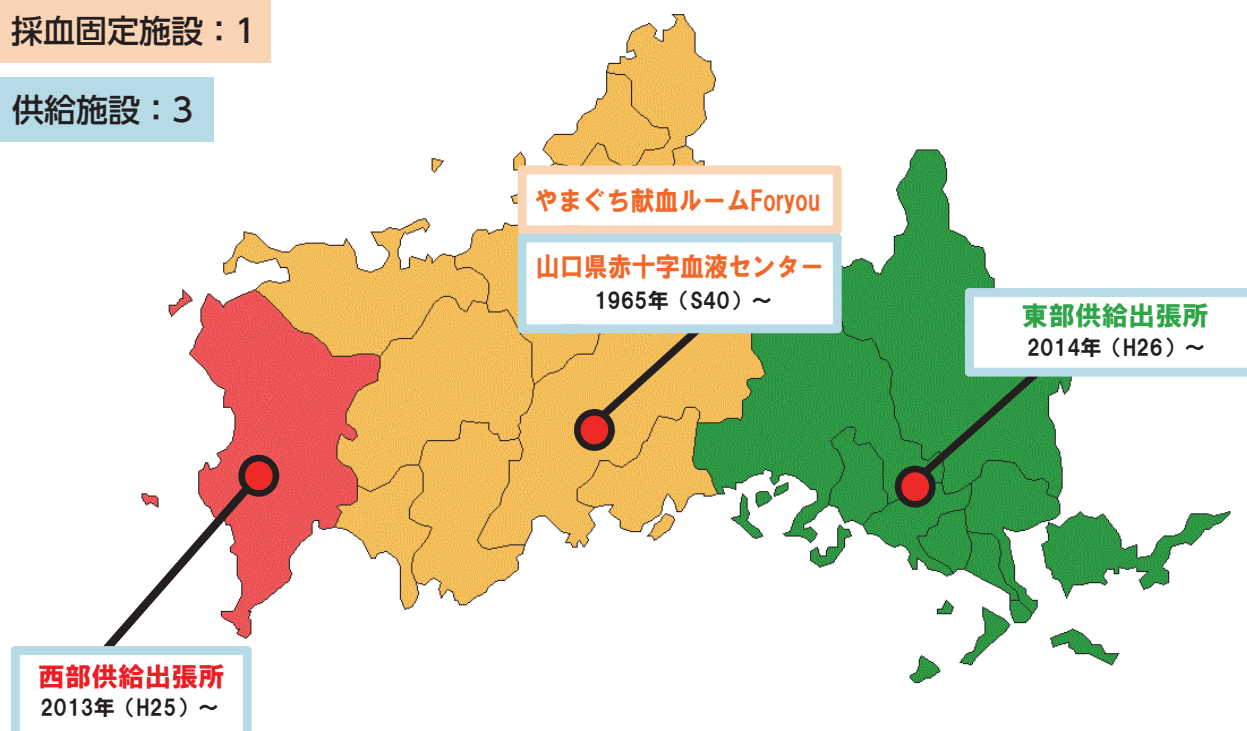
現在では、採血固定施設1か所、供給施設3か所で、血液事業を展開しています。

#### □ 施設 Facilities

（2021年4月1日現在）

採血固定施設：1

供給施設：3



※色分けは、供給エリア

#### 西部供給出張所

〒751-0817 下関市一の宮卸本町2-22-1  
 TEL 083-222-3720 FAX 083-222-3727  
 〈供給エリア〉 1市、下関市  
 〈医療機関数〉 29



## やまぐち献血ルームFor you（山口県赤十字血液センター）

〒753-8534 山口市野田172番地5  
TEL 083-922-6866・0120-456122

〈献血受付時間〉

【成分献血】

（平 日） 9:30～11:30／13:00～16:30

（土日祝） 9:00～11:30／13:00～16:00

※骨髄バンクドナー登録は成分献血の受付時間内に受付しております。

【400・200mL】

（平 日） 9:30～12:00／13:00～17:40

（土日祝） 9:00～12:00／13:00～16:40

〈定 休 日〉 毎週木曜日

〈供給エリア〉 7市1町、山口市・防府市・萩市・長門市・  
美祢市・宇部市・山陽小野田市・阿武町

〈医療機関数〉 63



## 東部供給出張所

〒745-0662 周南市高水原1丁目3番22号  
TEL 0833-92-0050 FAX 0833-91-0010

〈供給エリア〉 5市5町、周南市・下松市・光市・柳井市・平生町・田布施町・  
上関町・岩国市・周防大島町・和木町

〈医療機関数〉 43



## 新たな歴史を積み重ねて着実な歩み続ける。

1965年（昭和40年）の開設以来、輸血を必要とする患者さんのため時代とともに、着実な歩みが続けています。

### □ 沿革 History

1960	1964年（昭和39年）	「献血の推進について」閣議決定 11月、「山口県献血推進協議会」を設置
	1954年（昭和40年）	2月、山口赤十字病院内の一室に山口県赤十字血液センターを開設 移動採血車一台により献血業務を開始
	1969年（昭和44年）	4月、山口赤十字病院敷地内に独立の社屋を新築
	1974年（昭和49年）	献血100%の体制が確立
1970	1975年（昭和50年）	日本民間放送連盟主催「はたちの献血」キャンペーン実施 生化学的検査サービス結果を異常者へ通知開始
	1976年（昭和51年）	4月、供給体制を直配から一部委託配送へ変更
	1978年（昭和53年）	ビン採血からバッグ採血に全面切り替え
1980	1982年（昭和57年）	献血手帳の様式を一部変更（供給欄廃止） 生化学的検査サービス結果を献血者全員に通知開始
	1983年（昭和58年）	HIV-1及びHTLV-1抗体検査を開始
	1984年（昭和59年）	6月、現在地に社屋を新築移転
	1986年（昭和61年）	400m L 献血と成分献血を導入
	1989年（平成元年）	世界に先駆けて、HCV抗体検査を開始
1990	1990年（平成 2年）	民間製薬業者による国内での有償採漿が中止され、血液製剤製造 目的の採血が日本赤十字社に一元化
	1990年（平成 2年）	11月、「山口県学生献血推進協議会」を設置
	1992年（平成 4年）	1月、「山口県骨髓データセンター」を開設
	1995年（平成 7年）	5月、下関市に山口県初の「献血ルームFor you」を開設 献血時間診項目が全国統一される
	1997年（平成 9年）	10月、「山口県血液製剤使用に係る懇談会」を設置
	1998年（平成10年）	放射線照射輸血用血液製剤を供給開始
	1999年（平成11年）	献血可能年齢が64歳から69歳までに引き上げ 全国の献血者データの一元的管理を開始 「NAT（核酸増幅検査）」を開始



血液センター旧社屋（1969年当時）

## 2000

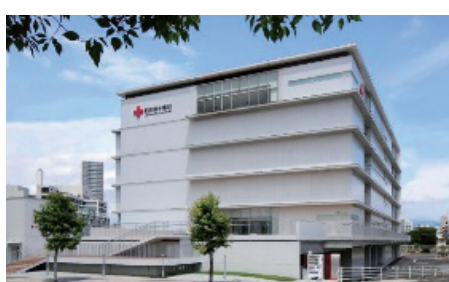
- 2000年(平成12年) NATプールサイズを500プールから50プールに減少  
 2001年(平成13年) 7月、「第37回献血運動推進全国大会」を山口市で開催  
 2002年(平成14年) 日本赤十字社の血液事業が、50周年を迎える  
 2003年(平成15年) 「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」施行  
 2005年(平成17年) 改正された薬事法が完全施行され、日本赤十字社は医薬品製造販売業の許可を取得  
 2006年(平成18年) 3月、複数回献血クラブ「TEAM35」設立  
 献血手帳「紙」から献血カード「磁気カード」へ切り替え  
 2007年(平成19年) すべての血液製剤を白血球除去製剤に切り替えて製造開始  
 血液検査業務を廃止し広島県赤十字血液センターに移管  
 採血基準の血液測定を血液比重検査からヘモグロビン検査に変更  
 血小板製剤の有効期間が採血後72時間から採血後4日間に変更  
 2009年(平成21年) 検査サービス通知にグリコアルブミン(GA)検査を追加

## 2010

- 2010年(平成22年) 5月、委託配送体制から供給分室(4箇所)による配送体制に変更  
 2011年(平成23年) 200mL献血者にも血球計数検査の通知を開始  
 400mL献血は男性17歳から可能になる(旧18歳)  
 2012年(平成24年) 3月、「献血ルームFor you」改装オープン  
 4月、広域的なブロックを単位とする広域運営体制を開始  
 日本赤十字社中四国ブロック血液センターを設置(広島市)  
 2013年(平成25年) 県西部地区の供給拠点として「西部供給出張所」を開設  
 日本赤十字社が、移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律における全国唯一の「造血幹細胞提供支援機関」に指定  
 2014年(平成26年) 5月、県東部地区の供給拠点として「東部供給出張所」を開設  
 個別NAT(献血者1人分の血液ごとに調べる検査)に切り替える  
 2015年(平成27年) 日本赤十字社による血漿分画製剤の販売が終了  
 4月、宇部供給分室を廃止し山口県内への供給はすべて直配体制になる  
 2016年(平成28年) 洗浄血小板製剤の供給を開始  
 2017年(平成29年) 12月、「献血ルームFor you」業務終了  
 2018年(平成30年) 3月、山口県赤十字血液センターと献血ルームFor youを統合し、「やまぐち献血ルームFor you」として改装  
 複数回献血クラブの会員サイトを献血Web会員サービス「ラブラッド」\*に一新し、全国で統一した運用を開始  
 \*「ラブラッド」とは「ラブ(愛)」と「ブラッド(血液)」をかけあわせた愛称  
 2019年(令和元年) 6月、献血つながりプロジェクト「みんなの献血」がスタート  
 2020年(令和2年) 新型コロナウイルス感染拡大により全国で献血バス受入の中止が相次ぐ  
 三密回避、献血者安定確保のため移動献血会場で献血予約開始



献血手帳



中四国ブロック血液センター



「ラブラッド」ロゴマーク

 山口県赤十字血液センター

日本赤十字社

〒753-8534 山口県山口市野田172番地5  
TEL 083-922-6866

2021年7月20日発行